

令和6年2月7日

明治時代から昭和初期の植物標本（服部保義コレクション） 約1000点が田村高校より共生システム理工学類生物多様性保全研究室に寄贈

明治時代から昭和初期の植物標本（服部保義コレクション）約1000点が福島県立田村高校より福島大学共生システム理工学類生物多様性保全研究室に寄贈されました。福島県内の博物館等には化石以外の自然史資料がほとんどないことから、明治時代のまとまった植物標本はこれまであまりありませんでした。

服部保義コレクションには福島県内で自生が知られていなかったカワラサイコや絶滅したと考えられているゴマノハグサなど貴重な標本が含まれています。これらの標本の研究が進むことにより、知見に乏しい明治時代の県内の生物多様性に関して新たな知見が得られることが期待されます。

服部保義（はっとりやすよし）氏は福島県の植物を研究した最初の植物研究者の1人で、イワキアブラガヤの発見者として知られ、牧野富太郎が命名したイワキアブラガヤの学名 *Scirpus hattorianus*（スキルプス・ハットリアヌス）に名を残しています。福島県内で多くの植物標本を作成したことや大半は三春町内の自宅に建設した「服部植物標本館」に所蔵していたことは当時の新聞報道などから知られていますが、それらの標本の所在は現在わかっていません。旧制田村中学校（現福島県立田村高等学校）に約1000点寄贈されたことも知られていました。田村高等学校の標本は長らく確認されていませんでしたが、近年田村高校実習教諭が動植物標本を整理中に発見し、「同窓会だより No. 45」（平成31年3月1日）の表紙に標本の写真が掲載したことから広く知られることになりました。

このたび、田村高校は創立100周年を機に、服部保義植物標本コレクションを教育研究に活用するために、福島大学共生システム理工学類生物多様性保全研究室に寄贈しました。

<https://tamura->

[h.fcs.ed.jp/blogs/blog_entries/index/75/limit:100?frame_id=59](https://tamura-h.fcs.ed.jp/blogs/blog_entries/index/75/limit:100?frame_id=59)

植物標本は10月16日と11月21日の2回に分けて車で運搬され、その後殺虫処理を行い、現在同定の確認やラベル作成などの整理が進められています。

服部保義植物標本コレクションは約1000点で、明治時代から昭和初期の植物標本からなります。詳しい分析はこれからですが、福島県内で自生が知られ

ていなかったカワラサイコや絶滅したと考えられているゴマノハグサなど貴重な標本が含まれています。また、イワキアブラガヤ発見時の標本など、国内の植物研究史上重要な標本も含まれていました。

明治時代のまとまった植物標本は福島大学貴重資料保管室植物標本室にある田口亮男コレクション約700点が知られていますが、福島県内の博物館等には化石以外の自然史資料がほとんどないことから、他にはほとんど知られていません。服部保義コレクションには数百点程度の明治時代の標本が含まれています。これらの標本の研究が進むことにより、知見に乏しい明治時代の福島県内の生物多様性に関して新たな知見が得られることが期待されます。



【服部保義氏略歴】

生没年不明。福島師範学校に明治20（1887）年入学し、教諭の根本莞爾に植物分類学の手ほどきを受けました。明治24（1891）年師範学校卒業後は三春小学校など、小学校に勤務しました。木材腐朽菌の標本も採集し、菌類研究者安田篤に送り、新種発見に協力したことで知られています。

図1. 福島県立田村高校より福島大学共生システム理工学類生物多様性保全研究室に寄贈された標本

左上：福島県でこれまで確認されていなかったカワラサイコの標本（1917年6月9日、磐城小泉〔現郡山市富久山町南小泉・北小泉？〕、服部保義採集）右上：福島県で絶滅したと考えられているゴマノハグサの標本（1902年12月10日、磐城文殊〔現田村市船引町船引文殊〕、服部保義採集）左下：福島県天然記念物のビャッコイの標本（1917年8月4日、磐城金山〔現白河市表郷金山〕、服部保義採集）右下：イワキアブラガヤ発見時の標本で、牧野富太郎に送付された標本の重複標本（1925年7月28日、岩代大寺〔現磐梯町大寺〕、服部保義採集）ラベルに牧野富太郎による命名の経緯が記されている

（お問合せ先）

共生システム理工学類・教授 黒沢 高秀

電話：024-548-8201

メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp